

職域でのウイルス検査受検率向上に向けた取り組み

研究分担者：遠藤 美月 大分大学医学部附属病院医療安全管理部 講師
研究協力者：本田 浩一 大分大学医学部消化器内科 講師
研究協力者：荒川 光江 大分大学医学部附属病院肝疾患相談センター助教

研究要旨：先行研究において、全国健康保険協会（協会けんぽ）は612円の自己負担（協会けんぽが約1400円を負担）で肝炎ウイルス検査を受診可能なoptionを有するも、その受検率は1%前後であり、受検がすすまない因子として、受検申込書の文字数が多い事が着目され、文字数を1/3減少し、一部負担で受検できることを明瞭化した簡易申込書が作成され、その有効性が示された。大分県協会けんぽにおいては、2019年度に研究班が作成した受検申込書にややアレンジを加えた大分県版新規説明書を大分市内に配布し、前年より約1.3倍の受験者の増加を認めたが、他の地域に比べ微増であった。今回、大分県全域に研究班が作成した受検申込書を踏襲した研究班バージョンを配布し、大分市においては大分県版との受検率の比較、大分市以外の地域においては、簡易受検申込書が受検率向上に寄与したかを研究した。

A. 研究目的

近年、B型肝炎やC型慢性患者に対する抗ウイルス療法が進歩し、ほとんどの患者の肝炎鎮静化あるいはウイルス排除が可能となった。一方、自身のウイルス肝炎の有無について知らない人も多く、また、知っている、有効な治療を受けていない人が多いことが問題となっている。受検、受診、受療の各過程における対策が必要であるが、本研究では職域検診における肝炎検査を促進するためのツールとして、研究班が作成した簡易受検申込書を踏襲した検査説明書を大分県内全域に展開し、その有効性について検討を行った。

B. 研究方法

協会けんぽ大分支部の加入者は約25万人存在する。大分市には前年度に展開した大

分県版簡易申込書から研究班が作成した申込書を踏襲した研究班バージョンに変更し配布した。また、大分市外においては、新たに、研究班バージョンの申込書を配布した。これにより、県内全域で研究班バージョンの申込書が展開され、2021年4月より案内を開始した。

変更前（大分県版バージョン）

肝炎ウイルス検査のお知らせ

協会けんぽでは生活習慣病予防健診と同時に
肝炎ウイルス検査を実施しています。

2,041円の検査が612円で受けられます！
特別な検査は必要ありません！
(一般健診の採血の時に同時に採血します。)

※ 協会けんぽでは肝炎ウイルス検査を受けたことがあっても検査結果がでません。
検査結果がわかるまでお待ちください。

肝炎とは…

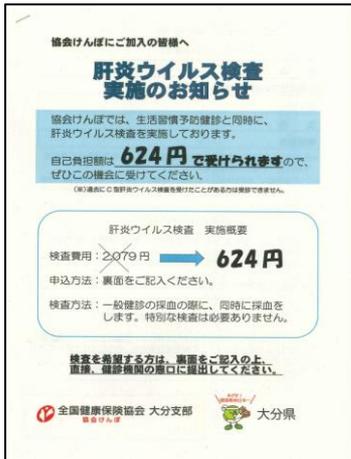
肝炎は、肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。
原因は「洗剤の残留」や「虫」など、食生活が原因に由来し、血液検査によって「早期発見・早期治療」を行うことが重要です。
検査中や検査後、感染している可能性のあるため、感染防止に注意されることをお勧めします。(検査結果は別途お知らせします。)

今まで受けたことのない方、または受けたかどうか分からない方は、
この機会にぜひ受けてみてください。

お申し込みは、裏面をご覧ください！

全国健康保険協会 大分支部
大分県庁

変更後（研究班バージョン）



大分市においては簡易申込書導入前（2018年4-9月）と大分県版申込書導入後（2019年4-9月）および研究班バージョン申込書導入後（2020年4-9月）の肝炎ウイルス検査受検率の比較を行った。

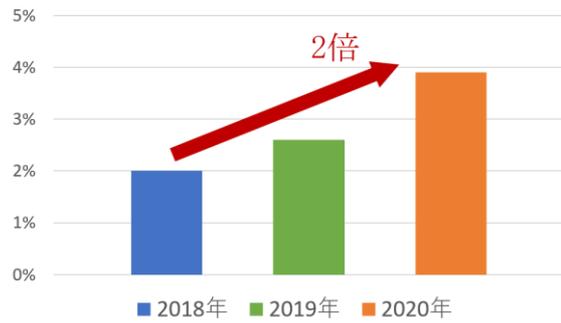
大分市以外の地域においては、研究班バージョン導入前（2019年4-9月）と導入後（2020年4-9月）の肝炎ウイルス検査受検率の比較を行った。

C. 研究結果

大分市における2018年4-9月、2019年4-9月、2020年4-9月の健診受検者に対する肝炎検査受検割合の比較

	肝炎検査受検者数	健診受検者数	肝炎検査受検割合 (%)
2018年4-9月	585	29,830	2.0%
2019年4-9月	829	31,303	2.6%
2020年4-9月	990	25,568	3.9%

大分市における肝炎ウイルス検査受検率の比較



大分市において、大分県版の簡易申込書を導入した2019年は2018年の同期間と比較して1.3倍(2.6%/2.0%)と肝炎検査受検者は微増であったが、2020年に研究班バージョンを導入後は大分県版導入後から更に1.5倍(3.9%/2.6%)に増加し、簡易申込書導入前の2018年と比較すると2倍(3.9%/2%)の増加を認めた

大分市以外における2019年4-9月、2020年4-9月の健診受検者に対する肝炎検査受検割合の比較

	肝炎検査受検者数	健診受検者数	肝炎検査受検割合 (%)
2019年4-9月	585	29,849	1.8%
2020年4-9月	842	25,313	3.3%

大分市以外における肝炎ウイルス検査受検率の比較



大分県の人口は約 130 万人、大分市の人口は約 48 万人であり県民の約 37%ほどであるが、検診受験者が都市部に多いため、大分市と大分市以外の総受検者数は 2019 年、2020 年とも同程度であった。大分市以外の検診機関において、研究班バージョンの簡易申込書導入前後を比較すると、導入後は導入前より肝炎検査受検率が 1.8%から 3.3%と 1.8 倍に増加した。

D. 考察

研究班で作成した簡易型申込書は、従来のものに比べ、文字数が少なく、短時間で検査について理解することができ、さらに 2079 円の検査費が 624 円になることをアピールできるナッジ理論を応用していることが特徴である。瞬時に検査費用が安いというイメージをもってもらうことができ、検診率・検診者数の増加につながったと考えられる。大分県では、2019 年度は研究班の作成した簡易申込書にアレンジを加えた大分県版の簡易申込書で大分市内の検診機関で導入したが、アレンジを加えたことで研究班が作成したものに比べ、ナッジ理論を応用したアピール力が低下したと考えられ、研究班バージョンに変更後の受検率上昇がより大きかった。今回はシンプルに説明書を差し替えただけでも検診者の増加が得られたことより、説明書配布時に受検勧奨を加えることができれば、さらなる受検者数の増加につながる可能性があると考えられた。また、今後の課題として受検者の肝炎ウイルス陽性率や陽性者の受診行動の確認に取り組むことがあげられる。

E. 結論

協会けんぽと連携し、簡易申込書の有効性について検討した。研究班バージョンの簡易申込書に差し替えたことで、受検率・受検者数の増加が認められたが、さらに受検者数を増やすためには、説明書の見直しや口頭での受診勧奨などさらなる工夫や対策が必要と考えられた。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

職域検診での肝炎検査推進のために、肝炎検査説明書の刷新は有効と考えられるが、受検者数を増やすためには、肝炎医療コーディネーターを活用した受検勧奨の取り組みが有効と思われる。

<研究に関連した実務活動>

肝炎検査は一度行えばよいとため、検診結果を記憶できるよう、受検者への肝炎シールの配布を行っている。また、肝炎医療コーディネーター研修会を行い、コーディネーターによる受検・受診・受療の勧奨に取り組んでいる。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし